



# 国際病理アカデミー

## 日本支部

A NEWS BULLETIN 2003 Number 3

Published quarterly  
by the Japanese Division  
of the International  
Academy of Pathology

### OFFICERS

#### PRESIDENT

R. Y. Osamura, M.D. (03)  
Tokai University

#### PAST PRESIDENT

S. Ushigome, M.D. (03)  
Jikei University

#### PRESIDENT-ELECT

T. Morohoshi, M.D. (03)  
Showa University

#### SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (03)  
National Defense Medical College

#### COUNCILLORS

T. Manabe, M.D. (03)  
Kyoto University

M. Tsuneyoshi, M.D. (03)  
Kyushu University

Y. Kato, M.D. (04)  
Cancer Institute

K. Mukai, M.D. (04)  
Tokyo Medical University

H. Hashimoto, M.D. (05)  
University of Occupational and  
Environmental Health

S. Nakamura M.D. (05)  
Aichi Cancer Center

#### COMMITTEE CHAIR

##### Education

N. Nemoto, M.D. (03)  
Nihon University

##### Finance

H. Yamabe, M.D. (03)  
Red Cross Wakayama Medical Center

##### Nomination

S. Ushigome, M.D. (03)  
Jikei University

根本教育委員長とマリア先生



### IAP日本支部教育シンポジウム 「上皮内癌の捉え方」

11月22日（土曜日）9:00-12:00

東京都医業健康保険会館（東医健保会館）

東京都新宿区南元町4番地、電話3353-4311

(JR総武線の信濃町から徒歩5分)

司会 恒吉 正澄（九州大学）  
諸星 利男（昭和大学）

1. 前立腺	白石 泰三（三重大学・病理学第2）
2. 子宮頸部	加来 恒壽（九州大学医学部保健学科）
3. 膀胱	諸星 利男（昭和大学・病理学第1）
4. 乳腺	市原 周（国立名古屋病院研究検査科）
5. 食道	大倉 康男（獨協医科大学病理学）

会場費3,000円、ハンドアウト代含む。そのとき、病理専門医の更新の5単位が得られます。連絡先はIAP日本支部常任幹事 松原 修（防衛医大・第2病理）まで。



### IAP日本支部総会

11月22日（土曜日）12:00-13:00、同じ場所で

主たる議題は：会員資格のこと、会員を増やすために現在の会員資格の「卒後5年」を「卒後の縛りを除く」としてはどうか、総会に諮ることになった。総会案内と理事選挙関係の書類と一緒に9-10月に出席葉書をお送りしますので、その時出欠の有無をお知らせ下さい。出席者にはお弁当を用意します。よろしくお願いします。



### IAP日本支部スライドセミナー

11月22日（土曜日）13:00-16:30、同じ場所で

1時限目 13:00～14:40

*A-1 皮膚の炎症性疾患	木村鉄宣（札幌皮膚病理研究所）
B-1 脳実質腫瘍	中里洋一（群馬大・第1病理）
C-1 前立腺の病理	三上芳喜（東北大・病理形態学）
D-1 骨の病理	野島孝之（金沢大・臨床病理学）

2時限目 14:50～16:30

*A-2 消化管の非腫瘍性疾患の病理	滝澤登一郎（東医歯大学・病理部）
B-2 悪性リンパ腫の病理	田丸淳一（埼玉医大総合医療センター）
C-2 胸腺上皮性腫瘍	向井 清（東京医大・第1病理）
D-2 精巣腫瘍	森永正二郎（北里研究所病院）

\*は新規コースです。病理専門医の更新の10単位が得られます。受講料は1コース6,000円（IAP会員）、8,000円（非会員）です。連絡先はIAP日本支部教育委員長 根本則道（日本大学医学部病理）まで。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 第8回日韓スライドカンファレンス

10月31日（金曜日）午後3時からBone and Soft Tissue

11月01日（土曜日）午前9-12時にIAPのもの、

場所はSeoulでCatholic Medical School, #505 Banpo-dong, Seocho-ku, Seoul, Korea 137-040

特別講演のspeakerは日本側から1人、下里幸雄先生を韓国側に推薦し、韓国側から歓迎の意向が伝えられました。今回は韓国病理学会の定期総会と一緒に行われる予定です。

### The Bone Tumor Club の第5回 Korean-Japanese Joint Slide Conference

日本側幹事 恒吉正澄（九大）

14:00-14:50 Registration and preview of slides

15:00-15:15 Opening ceremony

15:15-18:00 Slide conference

18:30- Reception

Registration fee: 5,000yen

### The 8th Korean-Japanese Joint Slide Conference of the IAP

日本側窓口 松原常任幹事

08:00-08:50 Registration and preview of slides

09:00-09:15 Opening ceremony

09:15-12:00 Slide conference

12:00-12:50 Lunch and photo

13:00- Tour?

Registration fee: 5,000yen

### IAPのGeneral Surgical Pathologyの症例を、5例ほど募集します。

簡単な臨床経過、病理診断とHE標本1枚を事務局まで送っていただけませんでしょうか。採用ということになりますと、100枚のHE標本作成を後日お願いすることになります。松原まで

一般的な旅行予定を述べますので、参考にして下さい。10月31日（金）午前中の便でお昼頃仁川国際空港へ到着、バスかタクシーで市内へ、ホテルにチェックイン後、会場のCatholic Medical Schoolへ、Bone and Soft Tissueの集会へ参加。午後に下里幸雄先生の特別講演が予定されています。翌日午前中に、IAPのGeneral Surgical Pathologyのスライドカンファレンスへ参加。我々が希望すれば午後のshort sight seeingを団体で動きます。11月1日夕方の便で帰国するか、もう一晩泊まって2日に帰国するかです。余裕をもってBone Tumor Clubへ参加するには前日の30日にSeoulへ泊まられた方がいいと思います。

ホテルは梨泰院（Itaewon）地区にあるHamilton Hotelを推薦しようと思います。料金はシングルが100,000ウォン、ダブル/ツイン135,000ウォンで、清潔でさっぱりした感じのホテルです。何よりロケーションが好い点が特徴で、会場となるCatholic Medical Schoolへは、1本の盤浦大橋を渡ればいいという近さで、タクシーの最低料金で行かれます。

Hamilton Hotel 韓国ソウル特別市龍山区梨泰院洞119-25(119-25 Itaewon-Dong, Yongsan-Gu, Seoul, Korea)

電話(02)794-0171～9 ファックス(02)795-0457

Website: [www.hamilton.co.kr](http://www.hamilton.co.kr)

E-mail: [hamilton@hamilton.co.kr](mailto:hamilton@hamilton.co.kr)

Inchun airportからHamilton HotelへはLimousineが便利だと思います。

梨泰院エリアは大変インターナショナルな町、日本人など外国人が安心して買い物を楽しむ町として注目されています。尚更、まとまった人数で宿泊すると料金のディスカウントが可能で、9月末までにまとめるごとに、Yang先生が直接ホテルと交渉してくださることです。これは旅行業者や、ホテルと直接交渉すると適応されないそうです。

事務局として少しでもホテル代が安くできればと斡旋に動きます。10月30日（木）、10月31日（金）、11月1日（土）の間について、宿泊の有無、シングルかツインか、ご氏名、所属、連絡先をお知らせ下さい。締め切りは9月20日とします。できればemailがいいですが、FAXでもお受けします。ただトラブルが起きるのでと帝京大の今村先生が心配されていました。つまり、ドタキャンとかホテルとの交渉で。事務局もちょっと心配しています。

飛行機便については事務局として動きませんので、各自で予約をお願いします。

↔↔↔..

### 8th Asia Pacific Association of Societies of Pathologists (APASP) Congress - 2003 - Bali -

September 2 - 5, 2003 Bali, Indonesia

Modern Pathology: From Basic Science to Clinical Applicationをテーマとして開催される。Registration Formは福岡の日本病理学会会場の受付に置きましたが、詳細は<http://www.apasp2003.com>にて。

### Surgical Pathology Update (SPU) 2003開催される

2003年6月20日（金）から22日（日）の間、湘南国際村センター（神奈川県三浦郡葉山町）において、「子宮体頸部腫瘍と軟部腫瘍」をテーマとして行われた。FacultyはSteven G. Silverberg教授（Maryland大学）、Guest Facultyとして、Christopher D. M. Fletcher教授（Harvard大学）、橋本洋教授（産業医科大学）、森谷卓也助教授（東北大学）を迎えた。

応募を募ったところ、今回も多数の希望者がいらっしゃり、50名の定員を超えて、10名のキャンセル待ちの方が多いいらっしゃるほどでした。北は札幌の太田先生、南は大分から蒲池先生、熊本から吉松先生（どちらがより南方であるのか？）が参加された。また、今回からアジアからの参加者が加わります。というのは、サクラファインテックジャパンからアジアの若い病理医を参加させるためにと今年60万円の寄付がありました。これを基にSurgical Pathology Update / Japanese Division of IAP (SPU/JDIAP) Grant for the Asian Young Pathologistsを作り、今年は長村会長からThai Divisionの会長のDr. Thiti KuakpaetoonとMalaysiaのDr. Suat-Cheng Pehに2人づつ若い病理医を推薦して欲しい旨の依頼がなされ、結果的にThaiからDr. Thiti KuakpaetoonとDr. Malee A. Warnissorn、MalaysiaからDr. Suat-Cheng PehとDr. Mun



Kean Seongの4人がSPU2003に参加することとなったのだが、Dr Mun Kean Seongはやむを得ない事情からとドタキャンとなつた。2000年から始めたSPUも今年は第4回目、国内はもとよりアジアからも病理医参加という発展をみせてきた。

標本を見る前に臨床経過だけで診断を言い当てたのはみんなびっくりしました。橋病 (Gastric schwannoma) という命名まで作られ大変な盛り上がりとなりました。多くのConsultation Casesが橋本 洋先生のところへconsultしたもので、Fletcher先生と診断があつていて、橋本先生の診断力の評価があつた様です。短い時間でこれだけの症例をこなせたのはFacultyの先生方の診断力のお陰です。いつもながらオリンパス光学工業のご協力で鮮やかに顕微鏡像が投影される装置を使わせて頂き、感謝しています。ちなみにオリンパスの顕微鏡に接続してきれいな像を投影してくれたのはテレビカメラCS600だそうです。わざわざ運んでセットして下さったのは横浜光学機器グループの白川さんと石黒さんでした。



Dr. T. Kuakpaetoon, Dr. M. A. Warmisornと清川先生  
講義の方は、Silverberg先生のいつもながらの明快で丁寧な講演、森谷先生の流暢な英語の講演に参加者は満足げにみえた。Fletcher先生のこれまた「免疫染色は要らないとか、MFHはないとか」といったはぎれのよい講演、誰かがアメリカ人にしてはきれいで聞きやすい素晴らしい英語だと褒めたので、ロンドン郊外出身の彼は苦笑いをしていた。橋本先生は最先端の研究内容から如何に軟部腫瘍を鑑別するかを講演された。

Dinner and Receptionでは、リピータもニューカマーも打ち解けていいムードとなりました。中でも東京医大的新井先生は見事で本格的な歌を披露して下さった。米澤 傑先生（鹿児島大）、森 茂郎先生（東大医科研）と病理医には声学に秀でた方が多いことか。お年よりのお二人は若くて美人のライバル登場とは夢にも思っていられないでしょう。

Consultation Cases (Uterus and soft tissue) with Facultyでは軟部が13例、GYNが3例集まりました。Fletcher先生が



Consultation Hourの光景

今回も弘前大の鎌田先生がSilverberg先生ご夫妻を湘南までエスコートして下さった。Silverberg先生ご夫妻は青森県五所川原に温泉付きの別荘を持たれて湘南セミナーの前にはそこへ逗留されている。Fletcher先生も6月18日（水）に成田へ到着、新幹線で京都へ向かわれ、京大の中嶋先生の招待でセミナーを開かれた後、中嶋先生が湘南までエスコートして下さった。

今回フジテレビがこのSPU2003を取材に来たことが大きなニュースです。長村先生の口利きで医療において病理医が大切なが、病理医が少ないと、乳癌の切除が病理診断なく行われていいのか、といった立場からの取材のようでした。Silverberg先生、Fletcher先生、清川先生、泉先生、能登原先生、和仁先生達がインタビューを受けられました。フジテレビで7月9

日午前中のトクダネという番組の中で放映されると聞きました。Dr. Siilverbergの講義中の取材



<<<<<<< 後日談 >>>>>>>>  
7月9日フジテレビの朝のトクダネの中の問われる医療の質、「病理医」が足りない、という番組をビデオで見ました。大学病院を除く全国の公立病院にアンケートを送って39/100から回答があり、病理医のいる病院が54%であった。米国では医者の中で病理医が3%いるのに、日本では25万人の中1,800人、0.7%である。東海大の鬼島先生が迅速診断している様子、伊勢原協同病院の熊木先生が1人病理医は大変とつぶやいていたり、長村日本病理学会副理事長が患者さんは病理医が診断したのかどうか?またどういう病理医が診断したのか聞いて欲しい、と迫っていました。著名な病理医もいると、慶應の向井萬起男先生の写真も紹介されました。病院で表面にはでてこないけれど病理医は重要な仕事をしている、また日本では大変に人数が少ないということが強調されていた様で、中々よくできていたように思えました。ただ、湘南セミナーの取材は一切出づじまい、ちょっと残念でした。取材に来たフジテレビの方に電話をしたら、上司に大幅にカットされましてご免なさいとのこと。インターイビューを受けられました先生方にも申し訳ありませんでした。

<<<<<<< 後日談終わり >>>>>>>  
SPUの勉強の方もさることながら、夜に宿舎のポケットラウンジでFaculty memberを交えた懇親会が大変評判がよいようで、夕食の後夜遅くまで盛り上がるのが常です。Siilverberg先生が持ってきて下さったベルというスコッチ、森谷先生の持ってきて下さった仙台の地酒などおいしいとおいしいとあつという間に無くなったり。



ポケットラウンジでの懇親会（中央がDr. Peh）

終了後のアンケートの集計を述べますと、33名の回答数で：

Scale 1 2 3 4 5 6 7 (%)  
COURSE MATERIALS

#### Handouts:

Poor	0	0	0	3	9	42	<u>46</u>	Excellent
------	---	---	---	---	---	----	-----------	-----------

#### Projected materials:

Poor	3	0	0	0	18	18	<u>61</u>	Excellent
------	---	---	---	---	----	----	-----------	-----------

#### INFORMATION CONTENT

#### Amount:

Too little	0	0	3	<u>40</u>	12	18	27	Too much
------------	---	---	---	-----------	----	----	----	----------

#### Timeliness:

Outdate	0	0	0	0	12	24	<u>64</u>	New
---------	---	---	---	---	----	----	-----------	-----

#### Practical value:

Useless	0	0	0	0	6	27	<u>67</u>	Useful
---------	---	---	---	---	---	----	-----------	--------

#### OVERALL SATISFACTION

Disappointed	0	0	0	0	3	29	<u>68</u>	Fully satisfied
--------------	---	---	---	---	---	----	-----------	-----------------

という結果であった。評価は高いものであった。



ポケットラウンジでの懇親会（中央が橋先生）

アンケート用紙に寄せられたコメントなどで、SPUの企画、運営などを称赞して下さる意見とは別個のものを列記します：

#### 講師陣に対して

Dr. Fletcherは素晴らしい

Dr. Sliverbergも今回は特に素晴らしい

日本人speakerは英語でやる必要がないのでは?

⇒外国のfaculty memberも日本人faculty memberが何を講演するのか聞きたいとの要望があり、またアジアからの参加者もいるので、英語でないと困ります。

#### 会場について

すべてauditoriumでやってほしい

初日のセミナーも第6会議室でいいのでは?

⇒auditoriumの使用料金が高いのです。



ポケットラウンジでの懇親会（中央が新井先生、手前が下川先生、長嶋先生、左端に近藤さん）

### Presentationについて

PC presentationが望ましい

スライドがつまるというトラブル

Handoutは文章のものが望ましい

Projected materialsをCD-ROMで配られたらいいんだが

⇒両方が可能ですが、講演者の希望に合わせています。ちなみにDr. Silverberg もDr. Fletcherも橋本先生もhigh techが嫌いで、森谷先生に泣いてもらった経緯です。

### ディスカッション用の顕微鏡

どこかにあると便利だが

⇒場所とお金の問題なんです。

### Time scheduleについて

Consultation Hourをもっと長くしてはどうか

症例呈示はprojectorを用意して欲しい

Coffee breakは15分位でいいのでは

2日目の朝は8時か8時30分からでいいのではないか?

lunchは1時間から45分でいいのでは?

⇒検討してみますが、この程度のゆっくりしたスケジュールがいいとか、これでもタイト過ぎるという意見もあって。もうひとつは食堂利用時間、チェックイン時間など、民間施設やホテルほど裕通が効かないこともあります。

### New Courseとして

Bone, Salivary gland, Brain, Placentaなどを希望

Liver tumorを希望

⇒参考にします。

wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww

## 2008年IAP国際会議（アテネ）のための

### Site Inspection（続報）

IAP本部会長の牛込先生が、1) 2008年IAP国際会議のためのsite inspectionと2) Intraeuropean Mediterranean Conference of IAPに招かれそのboard meetingに参加することの2つの目的のために、アテネを訪問されたことは、前回の記事で紹介した通りですが、その後、IAP



本部Treasurerで我々日本支部の大恩人であるDr. Jack P. Strongの奥様のMrs. Mihoko Strongから松原へお手紙と写真を頂きました。このプレティンの内容はとがく硬い感じのニュースやご案内ばかりですので、時には心温まるような記事もいいかなと思い、ここに紹介させて頂きます。  
\*\*\*\*\*

2003年6月6日

松原先生

ワシントンの交通信号のところでお目にかかるて以来、ごぶさたを申し上げて居ります。熱帯地に属するニューオリンズは毎日80度以上（摂氏で26.7度）の天気がつづいて居ります。JACKの野菜畑では色々な種類のトマトがまっ赤になってひとつづつ取るのが大変でございます。お百姓になりました！

お元気でご活躍のことと存じ上げます。

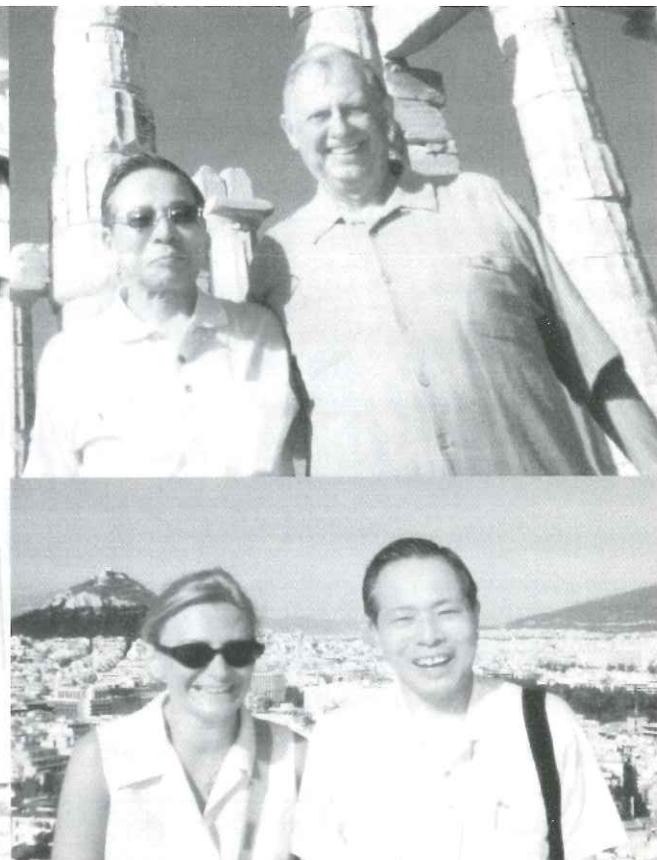
一ヶ月ほど前にギリシャで牛込先生にお目にかかりました。パンテオンにのぼるのは大変だと老人(Shander女史とJACK)が申し、私がそのかわりにまいりました。その時の写真を同封いたしました。（牛込先生にはないしょです。）この女性はアテネのガイドさんです。ぜひぜひIAP JAPANのNewsletterにして下さいませ。Blackmailみたいになりました！

JACKからよろしくと申し上げて居ります。

美保子

\*\*\*\*\*  
Dr. Jack P. Strongが、大変な親日家であることは以前にも紹介していますが、IAP日本支部の正規の会員で、このプレティンを楽しみに読んで下さっているのであります。Dr. Robin Cookeも読んでくれています。

いよいよ印刷所へと思っていたら、JACK先生からまたまたお手紙が来ました。June 26, 2003 Osamu sensei, Another photo, maybe for the newsletter Ushigome shacho and me at the Temple of Poseidon- All the best from Mihoko and me to the Japanese members of IAP. Dewa mata, Jackなるものです。今まで我々がBulletinには原稿をお願いしないと投稿はなかったのですが、今後どうぞ積極的にメールで投稿して下さい。Jack senseiの様に。



## 「IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞」公募

IAP 日本支部では本年の「IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞」を公募します。

### 記

賞の名称：IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞

受賞資格：日本の医療機関に勤務する若手（論文掲載時点でおよそ40才未満）の病理医（IAP 日本支部の会員か否かは問わない）

選考対象：2002年01月から12月の間に雑誌に公表された診断病理分野における優れた英文業績（1編）。英文業績のFirst authorを原則とする。

受賞者数：最大3名

賞：賞状と副賞10万円

### 応募方法

自薦、他薦ともに可とする（推薦者がなくても受け付ける）。

提出のもの：

- 1) 応募者および推薦者の所属、氏名を記す
- 2) 応募者については生年月日および年令を記す
- 3) 推荐者は推薦理由を、自薦の場合は応募理由を記した手紙（書式は自由、ただA4用紙で2枚以内）
- 4) 論文の別刷7部（コピーも可）

応募締切：2003年8月31日（当日消印有効）

宛先：〒359-8513所沢市並木3-2 防衛医科大学校病理学第2講座IAP 日本支部事務局気付、IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞係、松原 修あてに

### 選考方法・発表

IAP 日本支部の指名するIAP 日本支部・病理診断学術奨励賞選考委員会（日本病理学会、日本臨床細胞学会からも外部委員が参加）にて選考し、秋のIAP 日本支部年次総会およびIAP 日本支部のNews Bulletin紙上、加えて日本病理学会、日本臨床細胞学会の機関誌にて発表する。

なお、第1回目の受賞者も、規則に「再応募はいけない」と書いてないので受け付けます。

↔↔↔..

July 19-21, 2003, Guangzhou 広州

July 21-23, 2003, Hong Kong 香港

IAP, Asia地区のVice-presidentであるDr. Ho-keung NgをExecutive CommitteeのChairmanとして、開催される。Registration Formは福岡の日本病理学会会場の受付に置きましたが、参加をお考えの方は、Mrs. Irene Lo, e-mail: irenelo@cuhk.edu.hkへ連絡を取られたい。

↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔..

## DIAGNOSTIC PATHOLOGY UPDATE

COURSE July 12 - 18, 2003 in Bar Harbor, Maine

Atlantic Oakes By-the-Sea, Resort and Conference Center  
USCAPの方から説いてありますのでここに広告します。

## XXV Congress of the IAP

10 - 15 October, 2004

Brisbane, Australia

Website: iap04.im.com.au

日本から大勢参加しましょう

↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔↔..

湘南のSPUでお世話になっているサクラの近藤さん

あとがき：2003年度第3号をお届けし、同時に教育セミナーの申込葉書を同封します。より多くの先生方のご参加を望みます。会場はJR総武線の信濃町から徒歩5分の東京都医業健康保険会館（東医健保会館）で、とてもアクセスは楽な所です。今回当方は何も落ち度がないのですが、受け入れ先がダブルブッキングで、午後は一番広い会場がピアノ教室の発表会に占拠されます。ひたすら謝られたのですが、こちらとしても今後のことがあるので、強くはでられません。スライドセミナーの勉強中に「猫踏んじやった」の曲が流れるかも知れません。申し訳ありません。何しろ安い会場を確保するのは大変なんです。病理診断学術奨励賞の応募は今のところ3件です。このままだと応募者だけで受賞が決まります。どうか奮って推薦するか、応募して下さい。病理医のことがマスコミにも取り上げられる時代となりました。何か医療事故とか訴訟に関連してというのはちょっと淋しい気持ちがします。でもそれだけ医療に対する不信感というか、疑問が出てきたのでしょうかね。少なくとも病理の周りの医療環境は昔ながらのままで、良くならないですね。梅雨明け間近ですが、暑い暑い夏も大変ですよね。暑中お見舞いというか、蒸し蒸し梅雨のお見舞いというか、とにかくにも会員各位はご自愛下さい。

常任幹事：松原 修／事務局：佐々木洋子

〒359-8513 所沢市並木3-2 防衛医科大学校病理学第2

P: 042-995-1507 / F: 042-996-5193

E-mail: matubara@cc.ndmc.ac.jp

Fifth Association of  
Directors of Pathology of China

## USCAP教育材料がWebsiteでfree

USCAPのSecretary/Executive DirectorのDr Fred Silva から、次の連絡がありました。IAPを引っ張るUSCAPらしい懐の大きい親切と思います。Dr. Silvaで一段とUSCAPも好いほうへ変わっていっています。

Dear Officers of the IAP Divisions World-Wide,

Hope you are doing well. Just an updated note to ask you to let your members know that we now have up much of the USCAP's Annual Meeting Educational Materials on our USCAP Website: [www.uscap.org](http://www.uscap.org) for free. All 21 Companion Societies, all 16 Evening Specialty Conferences, and all the Scientific Abstracts (searchable by topic, disease, technology, etc) and many Short Courses are up on this website for anyone to use, at any time for free.

We hope you and your members find this useful. In addition, our USCAP Website has many links to other societies/institutions which also have an abundance of free educational materials if you should want it. Would you please call this to the attention of your members.

Thanks. Take care.

Fred Silva, USCAP.